埋文よこはま 47

横浜の埴輪（はにわ）

上矢部富士山古墳出土 動物埴輪（所蔵・写真提供 横浜市歴史博物館）

キーワード：古墳時代（3世紀中葉～7世紀末）・古墳・埴輪

弥生時代の特殊器台（とくしゅきだい）を起源として、3世紀後半に円筒埴輪が登場します。その後、4世紀中ごろに家形埴輪、器材形（きざいがた）埴輪（武器・武具・威儀具（いぎぐ）など）、動物形埴輪が出現し、5世紀前半に人物埴輪があらわれます。しかし、7世紀に入り前方後円墳（ぜんぽうこうえんふん）がつくられなくなると、埴輪もその姿を消します。

横浜市域ではこれまでに約80基の古墳がみつかっています。この内埴輪が置かれていたと考えられている古墳は未調査のものも含めると15基あります。古墳が集中している鶴見川（つるみがわ）流域では市域で最も早く、4世紀後半に古墳が導入され、やや遅れて大岡川（おおおかがわ）流域や柏尾川（かしおがわ）上流域でも古墳が造営されます。5世紀になると帷子川（かたびらがわ）流域など市中央部でも古墳が築かれるようになりますが、継続して営まれることはありませんでした。5世紀中ごろになるとついに市域にも埴輪を立てる古墳があらわれます。6世紀になるとさらに古墳の分布域がひろがり、古墳には横穴式石室が導入され、丘陵の斜面には横穴墓（よこあなぼ）がつくられるようになります。古墳がつくられなくなった後も横穴墓は継続してつくられますが、横穴墓には埴輪は並べられませんでした。

Q. もっと知りたい埴輪のこと

底や内側を大解剖！

突帯（とったい）

外側の粘土紐を貼り付けた部分を突帯と言います。通常2本以上つきます。突帯の形をよく見てみると断面形が三角形のものと台形のものがあります。三角形は2本指（写真上）、台形は3本指（写真下）でナデ、整えています。

基部（きぶ）

下の写真は、普段は見ることができない埴輪の下の部分です。よく見てみると、木目がついているのがわかります。これは埴輪を粘土でつくる時に、床とくっつかないようにするために、下に板や木の棒を敷いていた痕跡です。

上の写真は埴輪を3D画像にして半分に割ったものです。博物館で展示されている埴輪は内側をなかなか目にすることができませんが、内側では制作の痕跡を観察できます。

埴輪は粘土紐を積み上げてつくられ、表面はハケと呼ばれる工具を用いて整えられます。内側の見えない部分はあまり整えられていないため、写真のように粘土紐を積み上げた痕が残っていることがあります。

編集後記

今号より埋文よこはまの編集担当になりましたY.Nです。よろしくお願いします！横浜生まれ、横浜育ちのはまっこです。食べることが大好きで、学生時代は古墳時代のカマドをテーマに研究していました。横浜の埋蔵文化財をアピールし、少しでも皆様に身近に感じて頂けるような編集を心がけてまいります！

Y.N

横浜の埋蔵文化財について発信しています。
ぜひ登録をよろしくお願いします！

公式 X（旧 Twitter）　公式 Youtube

《埋蔵文化財センターのご案内》

JR 根岸線「港南台」駅

2番バス乗り場より神奈中バス港36・86系統「上郷ネオポリス」行きまたは港40系統「栄プール」行き、「上郷ネオポリス」下車徒歩1分

京浜急行「金沢八景」駅

3番乗り場より神奈中バス金24・25系統「上郷ネオポリス」行き「上郷ネオポリス」下車徒歩1分

・見学等の施設利用は、平日の9～17時までとなっています。
・団体の施設利用にあたっては、事前にご連絡ください。

埋蔵文化財センター HP

埋文よこはま 47

発行日　2024年3月31日
編集・発行　公益財団法人 横浜市ふるさと歴史財団
埋蔵文化財センター
〒247-0024　横浜市栄区野七里 2-3-1
TEL.　045-890-1155
FAX.　045-891-1551